

凡例

構成

- 一 原則として解説文は原資料よりも小さい字を用いて区別した。
- 二 手書き原資料はほとんどの場合、段落の第一行目は一字下がっていないが、本書では読みやすさを考慮して一字下げた。ただし段落全体が一字下がりの場合はその限りではない。
- 三 原資料中、番号が付された箇条書は原資料自体の表記のいかんにかかわらず、番号とそれに続く文字との間を一字あけた。
- 四 図表・楽譜などは原資料どおりの位置に入れたが、それが不可能な場合にはその近くに入れて、本文中に「」付きでその図表（楽譜）との関係を示した。

文字

- 一 原資料の漢字は原資料どおり旧字体を使用した。ただし原資料が手書きの場合は原則として、旧字体で書かれている漢字のみ旧字体を使用し、その資料の末尾に「手書き」と注記した。
- 二 原資料中の俗字は正字に直した。
- 三 原資料中の変体仮名は普通の仮名に改めた。
- 四 歴史的人名はすべて旧字体を使用した。
- 五 外国人教師名の綴りと仮名表記は履歴書にしたがった。
- 六 原資料が総ルビの場合、読みにくいもの以外はルビを省略した。
- 七 手書き原資料中、解説不能な文字は□で示し、解説の不確かな文字はその文字を□で囲んだ。
- 八 原資料中、文字の使われ方に疑義があるものはその右側に「ママ」と記入し、明らかに誤植と思われる文字は訂正した。

見出し・出典

- 一 番号付きのゴシック体の見出しで、「」が付いているものは、原資料どおりの見出しであることを示す。
- 二 明朝体の見出しで、「」が付いているものは、編集者が設けた見出しであることを示す。
- 三 資料の出典は各資料の終りに（）付きで示した。ただし雑誌からの資料は、その出典を号・年・月にとどめた。

括弧

- 一 〓は曲名を表す。ただしオペラ、オラトリオなど劇音楽は「」を付した。
- 二 『』は書名を表す。
- 三 原資料中の「」は編集者の注を示す。
- 四 解説文中の「」は引用文を、（）は説明文を表す。